

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102048		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム言の葉の家 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市東区貴平町571-1		
自己評価作成日	平成27年9月29日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvoCd=2277102048-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは平屋の建物で、ソーラーパネルが設置されています。ホームの周囲は水田に囲まれ、四季の移り変わりを感じ取る事が出来ます。入居者様が地域の中で自分らしく過ごす事が出来、また利用者にとって違和感のない居場所になるよう支援しています。平屋の建物で有る為、ユニット間の行き来が活発で交流する機会が多く、また職員同士の風通しも良好となっています。さらに当ホームは半数以上の職員が介護福祉士の資格を有しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前面は交通量の激しい一方で、後方には散歩コースにも事欠かない田園風景が広がっています。また事業所内でもグリーンカーテンをつかったり、家族が届けてくれた苗から栽培した野菜が食卓にのぼり、大地の恵みを堪能しています。2つのユニットは1号館、2号館と銘々していますが、隔たりがなく利用者も自由に往来し、何より職員のチームワークに優れ、利用者一人ひとりに格差なく連携した対応が叶っています。運営推進会議と防災訓練を併催して大勢の参会を得ることができ、また中学生の福祉体験を呼び込むことにも成功し、自治会からは敬老会への誘い掛けをもらえるまでになり、地域交流の深まりに手ごたえを感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人が地域の中で自分らしく生きて行けるように私たちは支援します」という理念を掲げ、共有している。	理念は掲示され、また日々業務で「理念に沿っているか」を管理者はみており、「その人が自分らしく在るか」をミニカンファレンスで共有しています。「地域のなかで～」は本年実現した例がたくさんあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に参加している。 自治会より敬老会の誘いがあった。	散歩では立ち話をしたり、また自治会からは敬老会の誘いもあり、当日は記念品贈呈で沸き立ち愉快的な1日を過ごすことができました。職員の孫やペットのほか、オカリナや紙芝居のボランティアも訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方の受け入れを優先している。 中学校の職場体験の受け入れを行い、入居者様が子供達との交流を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。自治会長や民生委員が意見を出してくれている。	日程は予め諮るため地域からは自治会長と民生委員が、行政では市役所と地域包括支援センターの出席がみられ、家族も加わって隔月開催されています。また自治会長は会議から離れた場でも情報提供くださいます。	メンバーを募り、多様な顔合わせとなることで更に充実した内容を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や、運営推進会議への参加のお願い、生活保護の入居者の相談手続きなどで何度も行き来している。	多いときは月4～5回市役所へ出向しているため、気軽に相談できる関係にあります。また運営推進会議の案内や議事録による報告も細目におこない、理解が得られるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会でAA課程を受け話し合いをする。 職員全員マニュアルで再確認をする。	言語だけでなく、声の大きさや言葉を掛けるタイミング等非言語についても定例会を通じて学習を積んでいます。拘束や虐待が掲載された新聞記事の切り抜きを持ち込む職員もいて、自主性が育っていることが覗えます。	言葉遣い集の制作を検討中とのことですので、実現を祈念します。また入浴時にやむなく行うという1階の玄関施錠は意識の硬直化を招くことのないよう、定期で話し合うことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会でAA課程を受け話し合いをする。 職員全員マニュアルで再確認をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人1名利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけでなく、すべて文書で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の実施日を金曜や土曜に設定し、入居者・ご家族共に参加しやすいようにしている。 家族が来設した際は、入居者様の状態を伝えている。	面会や受診同行で直接会話をもつことを旨としていますが、面会の間隔が空く家族には事業所から電話を入れ、日常の様子を口頭で伝えることが定着しています。年に1度、写真をフレームに入れ届けてもいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会で意見交換をしている。	入浴前におこなうミニカンファレンスは毎日あり、毎月の定例会と随時のリーダー会議にて意見を収集しています。「メニューを解り易く」や節水のこと、また日よけについてと、提言は枚挙にいとまがありません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は出来る限り応えている。 パート職員も交通費が支給されるようになる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にA課程、B課程の受講が義務付けられている。また初心者研修の受講を勧めている。 月に1回AA課程を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	D課程等、グループ内の交流で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初よりご本人及びご家族からお話を伺うようにしている。また利用者の様子を常に見守るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初よりご本人及びご家族からお話を伺うようにしている。 入居後ご家族が来設した際は、利用者の状態をお話する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態や、ご家族からの要望を聞いた上で個別で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カルテやご本人の話から得た情報を基にその人らしく生きていける事を大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護保険の申請や、定期的な受診の付き添いをしていただいている。職員はご家族に状態を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚が自由に入出し、野菜やお菓子等持ってきて下さる。また友人や保佐人がドライブや食事会に参加して下さる。	華道師範だった人は数ヶ月に1度生徒と出かけ、食事を摂って帰ってきます。また以前の利用者家族が今でもクリスマス会や納涼祭に訪れ、此処で生まれたご縁がつながっている例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	先頭に立ってトランプ等誘って下さる入居者様がいる。 ユニット間の行き来を自由にして交流を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談された場合、必要に応じて対応している。 退居されて5年たった今でもご家族が差し入れ等持ってきて下さることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人又はご家族から聞き取りをし、アセスメントシートにまとめている。 日常生活で忘れてしまう事が多くなってきている入居者にはゆっくり話しかけ、忘れないよう毎日決まった事を実践していただく。	「和食が」との声から外食を、またカラオケ好きな人とは誕生日祝いとして実現させました。人と関わることさえ難しかったのにトランプの神経衰弱で集中力が高まり、その後意思疎通がスムーズになった例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人又はご家族から聞き取りをし、アセスメントシートにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フェイスシートを使いまとめている。 経過記録の振り返りを行っている。また医師との連携を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訴えの出来ない入居者様は、ご家族の意見や職員のアイデア等、日頃より本人の様子を把握して計画していく。また、情報共有する為、常時カンファレンスを行い、モニタリングしている。	気づきシート、申し送りノート、排泄ノート、水分・睡眠チェック、バイタル…といった多面的な情報を集積し、頻回なカンファレンスと3ヶ月に1度の見直しにて現場に即したプラン作成がおこなわれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やADL表、カンファレンスノート等に記録して行っている。 短期目標で個別に実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時に希望があればスーパーで買い物をしたり、本人希望時に電話の利用をしたりする事がある。また入居者様のご兄弟のボランティアの受け入れをしたり、以前は温故療院を利用してしている方もいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の誘いがあり、4名声掛けを受けた。また米寿の祝い金を頂いた。正月には地域の氏子八幡神社への初詣にでかける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、眼科、外科、内科と必要に応じ受診できるよう提携している。受診に行きたがらない入居者様は往診して下さる。	内科2院、歯科1院が協力医として関わってくださっていますが、従来からのかかりつけ医を継続する利用者もいます。家族の付き添いには経過記録のコピーを渡し、受診後の指示は直接聴取しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護があり相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報用紙を作成し、病院との連絡を取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切にしながら方針を決め、都ケア等グループ全体で支えている。	契約時に事業所の終末期の方針を伝え、家族とは合意形成できています。心身状態の変化に応じて都度家族面談をおこない、利用者または家族の強い意向があれば看取りの態勢を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、周知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と協力し、防災訓練を行う。火災通報装置で直接消防署へ通報が行くようになった。	災害訓練は市役所にも知らせ、本年は運営推進会議併催でおこなうことで大勢の参会と意見の集約がありました。「現在は火災想定のためのため、今後は地震や水害対策も行いたい」との要望をもっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活が出来なくなった入居者様を、他の利用者様に分からないようにサポートし、一人の人格を尊重する声掛けをするようにしている。	「今日は何を着ましょうか」と、選べる人には声をかけ好みの衣服を身につけてもらえています。居室へ入る際には「失礼します」を習慣とし、トイレ誘導も他の人に知られないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重し、自分の希望を言い合えるよう声掛け、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の活動を優先する介護サービスを心掛けている。やりたい事があれば希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回のビューティーヘルパーでの散髪や髭剃り等行い、常に清潔な身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器拭きを行っていただいている。 季節を感じるおはぎ等を作り食べている。	茄子や南瓜の収穫物を調理したメニューは格別です。おはぎやカップケーキおやつや行事食、パン食の日、焼きそばの日と、「楽しみ」が湧くよう努めています。また納涼祭では家族に天ぷらを振る舞いました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のチェックを行っている。ご本人に合わせた食事形態にすることで必要な栄養を取れるようにする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせ必要に応じて見守り、介助。 生葉で歯槽膿漏の予防を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導や声掛けをして自立した排泄に向けて支援している。	排泄表を記録してパターンを把握するだけでなく、表情や素振りの癖も見極めて誘導をおこなっており、リハパンから布パンツ+パットに向上した実績もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示に従い、水分補給や服薬による対応をしている。 起床時、食事前にお茶を飲んでいただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の希望を優先している。また入浴の順番も考慮している。入浴拒否のある方は全身清拭も行っている。	拒否もあり、また積極的な人もみられないため、様子を窺ったり仲良しの利用者を巻き込んで誘っています。使い慣れ親しんだシャンプーハットで試みることもあり、アイデアを駆使して概ね1日おきの入浴が叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるようエアコンの調整、寝具の調整を行っている。また、ご本人の意思や今までの生活を尊重して、ご本人のペースでの生活を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳を活用。処方薬の情報に目を通し、症状の変化があればADLに記録をし、必要に応じ医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、農作物の収穫やパズル、外気浴で気分転換を行っている。また自主的に自室の清掃や食器拭き、洗濯たたみを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お正月の初詣やホテルでの昼食、ドライブを行っている。またご友人の協力で外出している。	外出行事に友人が随行したこともあり、春は花見、秋はドライブ食事会、おにぎり弁当持参の公園散策は繰り返しおこなわれています。残念なことに、散歩コースのコンビニエンスストアが閉店してしまい、おたのしみが一つ減っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっている。職員と一緒に買い物する際やキーパーソンと外出する際に渡す方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常にご本人の希望で自由に出来る(事前にご家族に確認)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらうように貼り絵を飾ったりしています。温度調節を行いご本人が不快にならないよう気を付けている。	清掃は日毎におこなわれ、清潔な空間です。家族から贈られた折鶴や利用者本人の書道もあり、職員と共同作品のお月見が季節感を醸し出しています。特に管理者が力を入れ導入された中学生の福祉体験を通じて一緒に制作した貼り絵は複雑で大変豪華でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテレビ等があり、新聞を見たりゲーム、パズルやお話したり等自由に過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを配置したり、家族の写真や絵を飾ってある。自分で塗ったぬり絵を飾ってある入居者様もいる。	ベッド、カーテン、洗面台、押し入れ、エアコンが備えられた居室は掃除を自身でおこなう人もいます。家族写真といったごく普通のもののなかに遠赤外線温熱器と珍しい品もあり、洋服を宝物としてたくさん持つ人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力に応じた環境を作り、安全に配慮し生活していただいている。		